



賀茂川・賀茂大橋～御池大橋両岸

- ・ 景観 : 北山や東山を望む開放的で緑豊かな風景
- ・ 周辺環境 : 低層住宅が主体。下流は公共施設等
- ・ 遊歩道 : 幅員 1.5m～3.0m
: 舗装 土系舗装
- ・ 施設 : 公園施設整備が行われている場所が多い
- ・ 利用者数 : 歩行者 970 人・自転車 760 台
(荒神橋上流右岸)
- ・ 特徴 : 駅伝大会やウォーキング等のイベントにも利用。舗装改良工事実施中。

舟形



高野川両岸

- ・ 景観 : 北山を望む緑豊かな風景
- ・ 周辺環境 : 低層住宅や公共施設、商業施設等
- ・ 遊歩道 : 幅員 1.5m～2.0m
: 舗装 砂利・土系舗装 (傷みが目立つ)、敷石
- ・ 施設 : ベンチ等の休憩施設は少ない
- ・ 利用者数 : 歩行者 500 人・自転車 140 台
(夢倉橋上流左岸)
- ・ 特徴 : 連続する桜並木。舗装改良工事中。



御池大橋～五条大橋右岸

- ・ 景観 : 隣接する先斗町や対岸の花の回廊など、賑やかで華やかな風景
- ・ 周辺環境 : 先斗町・納涼床、みそそぎ川。
- ・ 遊歩道 : なし (歩行は可)
: 舗装 法枠、石張りに覆土
- ・ 施設 : 休憩施設なし
- ・ 利用者数 : 歩行者 550 人・自転車 30 台
(四条大橋上流右岸)
※散歩散策の利用が多く、特に夕方からの利用が増加する。
- ・ 特徴 : 納涼床、みそそぎ川。滞留型の利用が目立つ

大文字駅伝コース

高水敷未設置。護岸に住宅が接している



七条大橋～陶化橋右岸

- ・ 景観 : 道路や鉄道などが密集した市街地風景
- ・ 周辺環境 : 事業所や住居等が混在
- ・ 遊歩道 : 幅員 3.0m
: 舗装 洗い出し平板舗装
- ・ 施設 : 休憩施設なし
- ・ 利用者数 : 歩行者 100 人・自転車 130 台
(九条跨線橋上流右岸)
- ・ 特徴 : 下流側は近年整備された。連続性に乏しくスロープが少ない (3箇所のみ)

高水敷は未整備であるが堤防天端に遊歩道あり



陶化橋～下流右岸

- ・ 景観 : 築堤河川で開放的で伸びやかな風景。
- ・ 周辺環境 : 工場、事業所、農地、住居等
- ・ 遊歩道 : 大半が無し
- ・ 施設 : なし
- ・ 利用者数 : - (非常に少ない)
- ・ 特徴 : 高水敷整備が一部で実施されている。堀川、西高瀬川で高水敷が分断されている。

塩小路橋～勸進橋左岸

- ・ 景観 : 道路や鉄道などが密集した市街地風景。
- ・ 周辺環境 : 事業所や住居等が混在
- ・ 遊歩道 : 大半が無し
- ・ 施設 : なし
- ・ 利用者数 : - (非常に少ない)
- ・ 特徴 : 高水敷整備が一部で実施されている。高水敷未設置区間や水路等で分断されている。



勸進橋～下流左岸

- ・ 景観 : 築堤河川で開放的で伸びやかな風景。
- ・ 周辺環境 : 事業所、住居等が混在
- ・ 遊歩道 : 幅員 2.0m～3.0m
: 舗装 土系舗装、カラー舗装
- ・ 施設 : ベンチ等の休憩施設は少ない
- ・ 利用者数 : 歩行者 170 人・自転車 130 台
(勸進橋下流左岸)
- ・ 特徴 : 公園施設整備が部分的に行われている



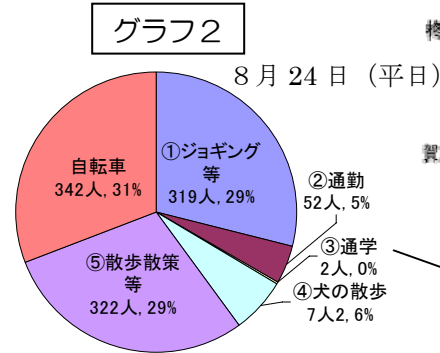
凡例

- 高水敷の現状
 - 高水敷がある区間
 - 高水敷が水路等で分断されている箇所
 - 高水敷遊歩道が整備されている区間
- 周辺土地利用
 - 低層住宅が主体
 - 住居・事業所等が混在
 - 公共施設等が主体
 - 商店、事業所、住居等が混在
 - 工場、事業所、農地、住居等

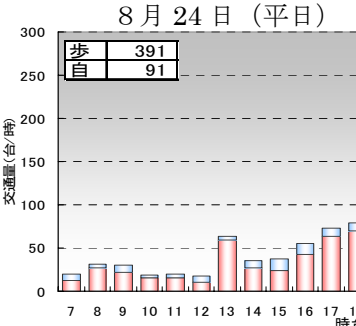
※利用者数は、平成 21 年 8 月 24 日 (月) の昼間 12 時間断面交通量を示す

2. 遊歩道利用実態と整備課題について

遊歩道の利用実態 (H21年度夏季調査結果概要)



グラフ1 夢倉橋上流右岸



グラフ5

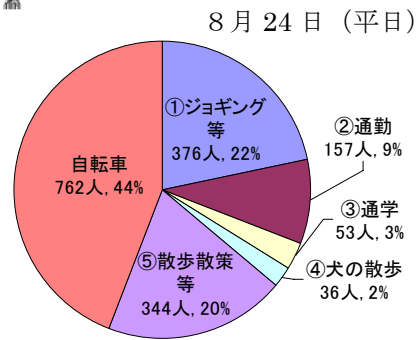
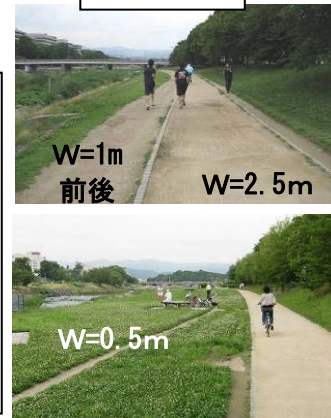
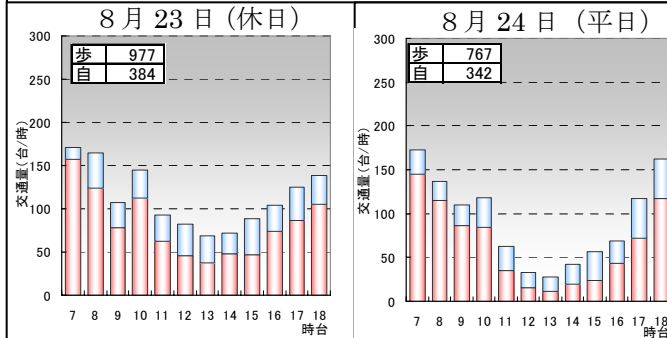


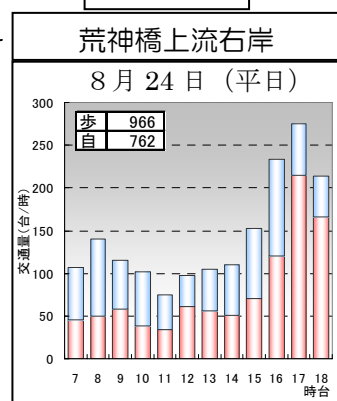
写真1



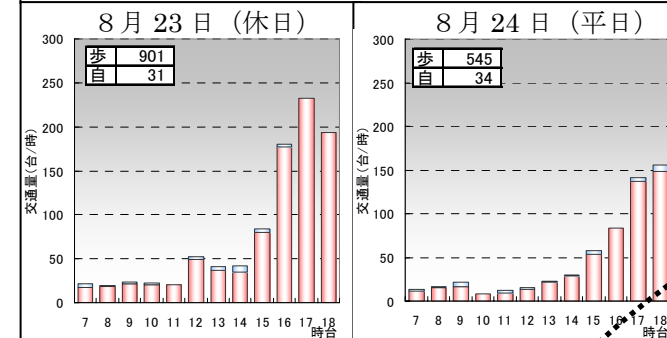
グラフ3 北大路橋下流左岸



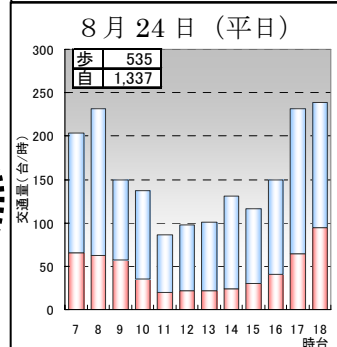
グラフ4



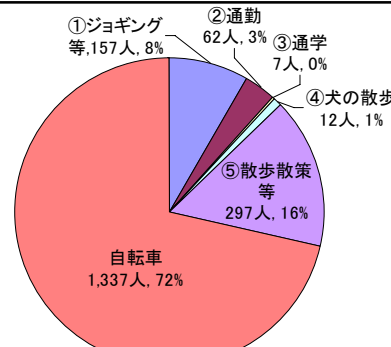
グラフ8 四条大橋上流右岸



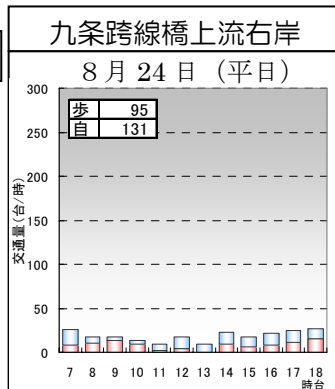
グラフ6



グラフ7



グラフ9



棒グラフ凡例
歩行者計
自転車計

高水敷遊歩道が整備されている区間

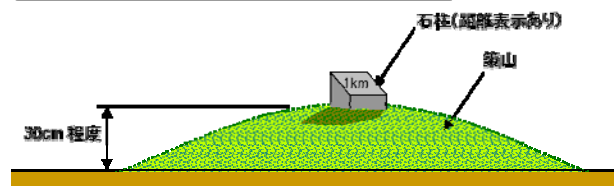
鴨川の区間	利用実態調査結果を踏まえた整備課題
高野川エリア	<ul style="list-style-type: none"> 沿川には住宅地が多いが、高水敷遊歩道が狭く痛んでいる区間もあり、利用者も少ない(グラフ1)。 そのため、遊歩道を利用しやすい構造に改善し、下流や賀茂川と一体となった軸(動線)としての利用促進を検討する。
賀茂川エリア	<ul style="list-style-type: none"> 都市公園として多くの区間が整備され、沿川の大半は住宅地であり利用者が多く、休日は昼間の利用者も多い(グラフ3)。 上賀茂橋より上流は幅員が狭くなっている。 ジョギング・ランニングの利用割合が他区間よりも大きく(グラフ2)、クラブ活動のランニングやマラソン大会等の団体利用も多い。 これらの利用に配慮した既存施設の更新を検討する。
鴨川ー荒神橋周辺エリア	<ul style="list-style-type: none"> 都市公園として整備され、利用者が多い(グラフ4)。 ジョギング・ランニングの利用割合も大きく(グラフ5)、クラブ活動のランニングやマラソン大会等の団体利用も多く見られる。(現地では小径や拡幅が発生している 写真1) また、賀茂川エリアよりも自転車の利用割合が増え、移動性の利用が多いことが伺える。 これらの利用に配慮した既存施設の更新について検討する。
鴨川ー市街地中心エリア	<p><左岸></p> <ul style="list-style-type: none"> 京都の市街地中心部であり、鉄道駅も多く近接しているため、高水敷の幅に余裕が無く休憩施設も少ないが、利用者が多い(グラフ6)。 自転車利用の割合が高く、平日の朝夕の利用者が特に多いが、一方、他区間よりもジョギング等の利用割合が低い(グラフ7)。 そのため、自転車利用のマナー向上、下流への誘導等について検討する。 <p><右岸></p> <ul style="list-style-type: none"> 京都の中心市街地に隣接し、買い物客や観光客など多くの人が集う場所として知られている。利用者の大半が散歩・散策であり、夕方の利用が極めて高くなっているが(グラフ8)、高水敷が未舗装で凹凸があるため歩きにくい。また、アクセスは階段が主体で、上流から来る自転車等にとっては袋小路となる。 そのため、町並みに調和しつつ誰もが安全・快適に利用できる空間整備を検討する。(スロープ等のアクセス路拡充は敷地条件から困難)
鴨川ー下流エリア	<ul style="list-style-type: none"> 下流にいくほど広い空間による開放的な河川景観となるが、木陰や四季の彩りに乏しく単調な印象を作っている区間が多い。 一部で公園整備が行われているものの、高水敷が未整備である区間や、水路等で分断されている箇所も多く、連続性に欠け、利用者が少ない(グラフ9)。 河川区域での耕作や不法投棄も見受けられる。 そのため、河川改修と合わせた高水敷の連続性確保や、緑化、溜まり空間の整備など、河川空間の魅力化を検討する。

3. 高水敷整備の基本的な考え方について

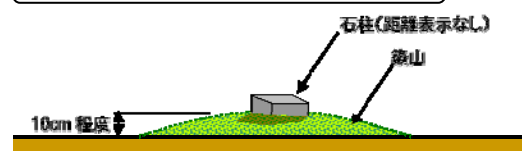
<高水敷整備の方向性>

- ・ 多様な主体が様々な目的で利用している鴨川等の高水敷は、都市の中心を貫く貴重な空間となっている。
- ・ これらの河川空間を、今後一層地域に親しまれ、来訪者を含む多くの人に利用される連続した空間となるよう更なる整備・更新を行う。

控えめな距離標(1km 毎)のイメージ



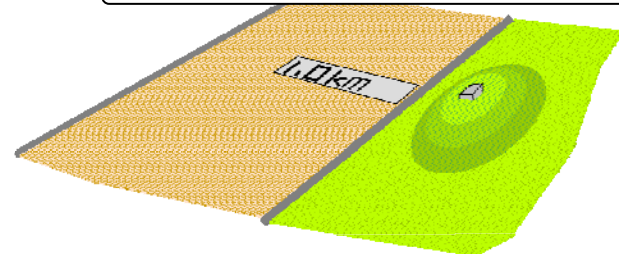
控えめな距離標(500m 毎)のイメージ



みそそぎ川周辺

- 更に多くの人が快適に集い、憩い、利用できる高水敷環境を充実させる。
- ・ 例：誰もが安全に利用出来るような舗装、標識等

距離標(路面表示併用)のイメージ[下流部]

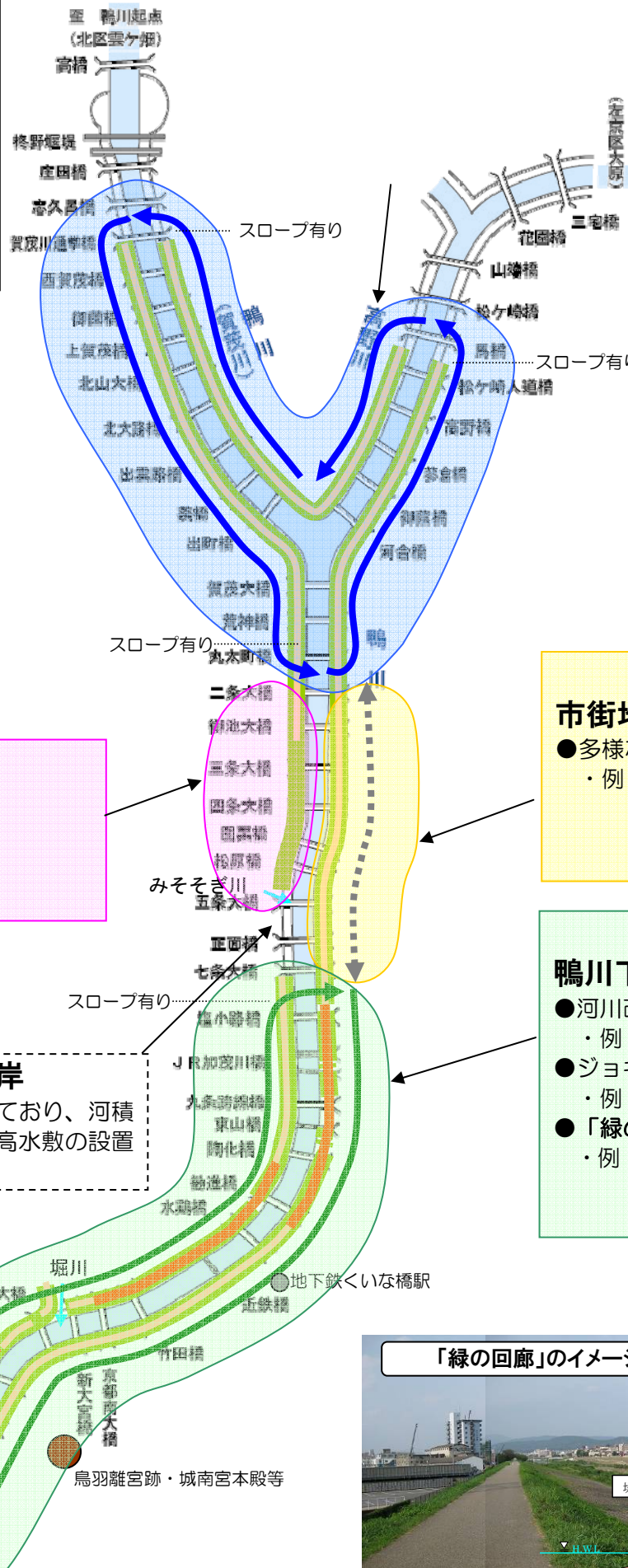


- 高水敷遊歩道が整備されている区間
- 高水敷遊歩道 (ジョギングロード) を新たに整備する区間

五条から七条右岸

- ・ 沿川に住宅が接しており、河積が狭く治水安全上高水敷の設置は困難である。

距離標(路面表示併用)のイメージ[下流部]



<論点>

- ① 高水敷の舗装については、土系のやわらかな素材を用いることを基本とする。
 なお、利用状況を把握し、利用特性を踏まえた整備を妨げるものではない。
- ② 高水敷の緑地は、現況を維持していくことを基本とする。
- ③ 現況の高水敷の舗装において、固い素材で整備されている区間については、維持・補修時を基本に土系のやわらかな素材に変更していくこととする。

鴨川公園と高野川

- 全ての利用者が快適に利用できるように高水敷遊歩道を活用・更新する
 - ・ 例：足に優しい真砂土舗装 (未舗装区間、傷みや凹凸が著しい区間)
- ジョギングコースとして設定する (全長 17.2km)
 - ・ 例：案内標識や控えめな距離標の設置、橋梁名板の設置

市街地中心部左岸(二条~七条)

- 多様な利用者が、より快適で安全に移動できる移動軸として設定する。
 - ・ 例：南北ジョギングコースの接続区間として案内標識や距離標を設置 (区間距離 3.2km)

鴨川下流 両岸

- 河川改修と合わせた連続する高水敷と遊歩道、沿川からのアクセス路等を整備する。
 - ・ 例：足に優しい真砂土舗装
- ジョギングコースとして設定する。(全長 14.4km)
 - ・ 例：案内標識や距離標 (路面表示含む) の設置
- 「緑の回廊等」「水とのふれあい回廊」
 - ・ 例：高水敷の芝生緑化、部分的な低木植栽、ポイント的な堤防堤内地側法面の高木植栽や緑化と合わせた拠点的な休憩・野鳥観察スポット、自然な水際の整備

「緑の回廊」のイメージ



護岸整備イメージ(阿武隈川の例)

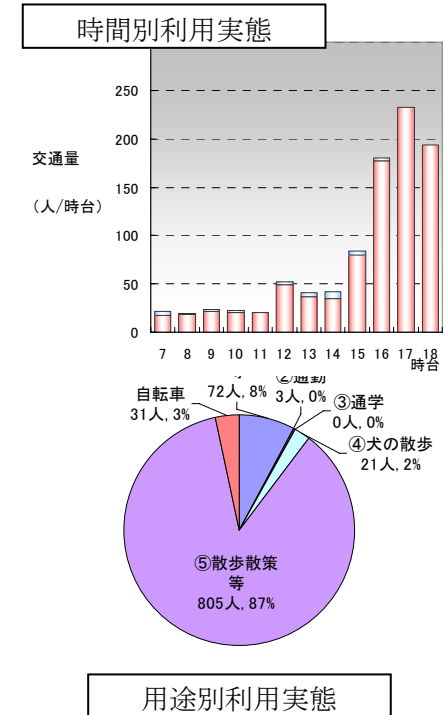
4. 鴨川(四条から御池)右岸高水敷整備(案)について

1 現状及び課題

- ▼ 鴨川とみそそぎ川の間の高水敷はコンクリート枠や石張り構造で、その表面は凸凹が生じている。
- ▼ 利用者の歩行や車いすの通行に支障が生じている。

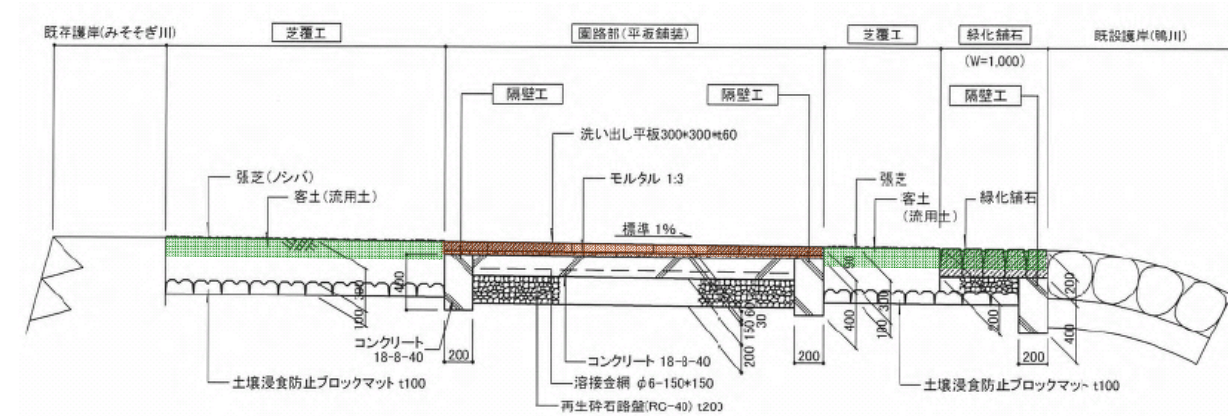


整備イメージ (御池～三条)



2 整備案の方針

- ▼ 自然を感じ、やすらげる緑化整備
- ▼ 治水上の支障がない構造
- ▼ 利用者の安全で快適な歩行構造とするとともに、バリアフリー化 (当該区間は利用者が多いため、通路幅員を7m程度確保)
- ▼ 伝統的な町並みや納涼床などと調和する色



〈論点〉

- ・ 芝生整備を基本とする (増水時の高水敷保護のため、芝生緑化の基部にはブロックマットを敷設)
- ・ 車いす・ベビーカー等多様な利用者の快適性の確保や高水敷保護のため、部分的に平板舗装による遊歩道を整備

5. 緑化・拠点整備等の候補地と整備イメージについて

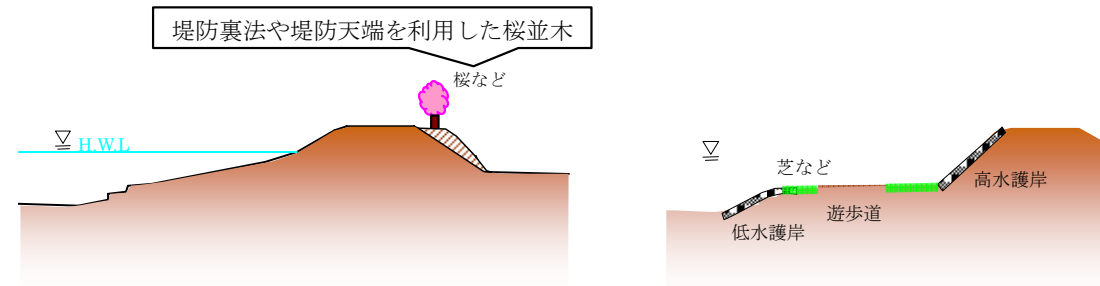


■かもがわ花物語の整備例

- ・ 上下流と連続する遊歩道
- ・ 都市公園との連続化整備
- ・ 鴨川へのアクセス路整備
- ・ 堀川等支川における人道橋設置
- ・ 休憩スポット
- ・ 鴨川の歴史やジョギングロードを紹介するサイン
- ・ 東屋、ベンチ
- ・ 堤防天端や高水敷における植栽
- ・ 水辺を近くに感じる低水護岸 など

■地域と連携・協働する河川管理例

- ・ 樹木管理の里親制度
- ・ 環境学習などの啓蒙活動 など

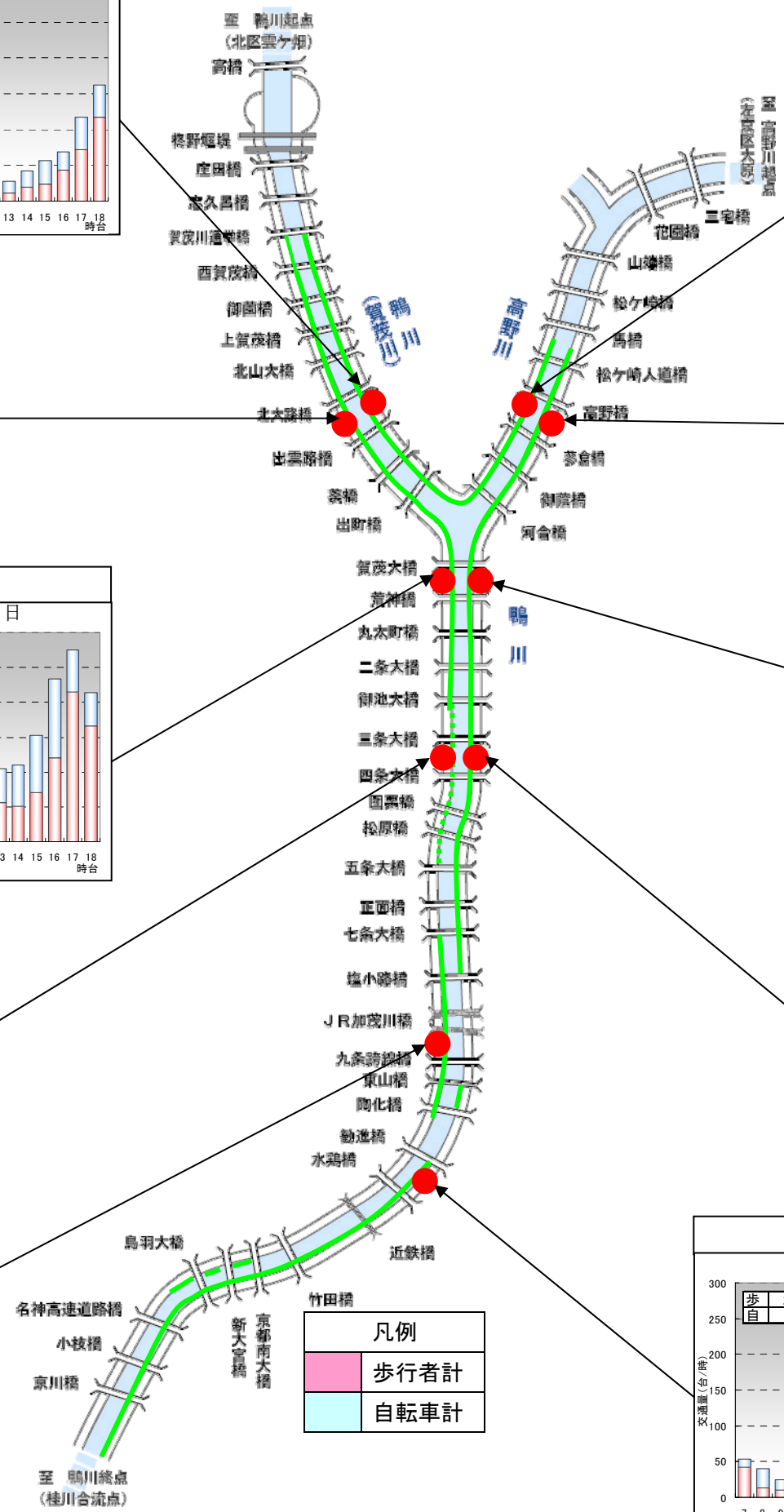
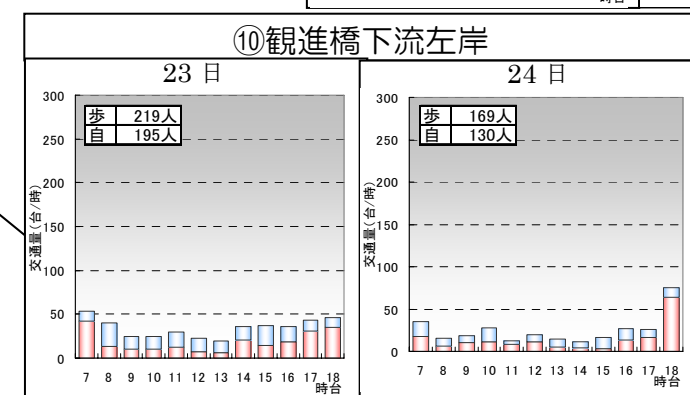
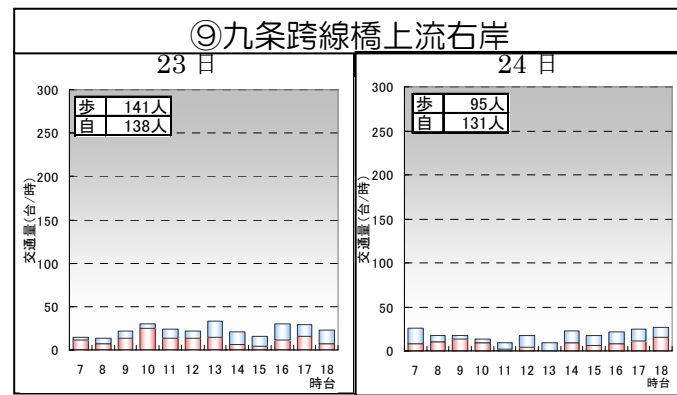
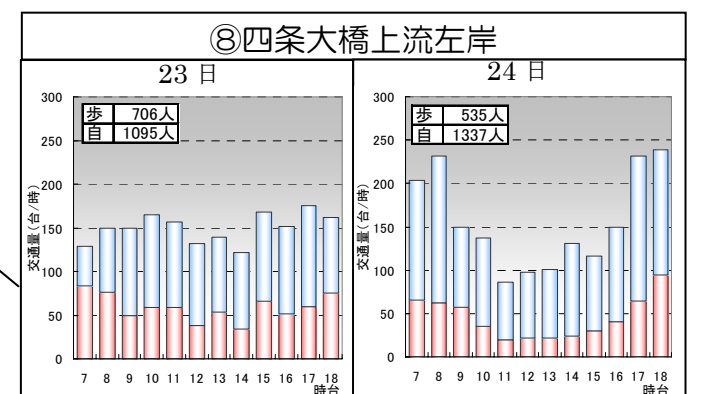
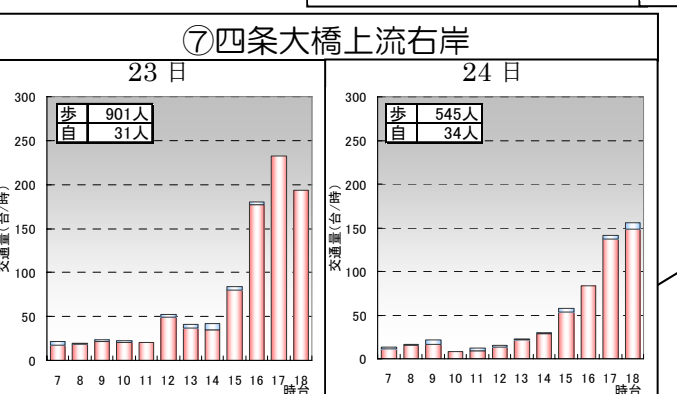
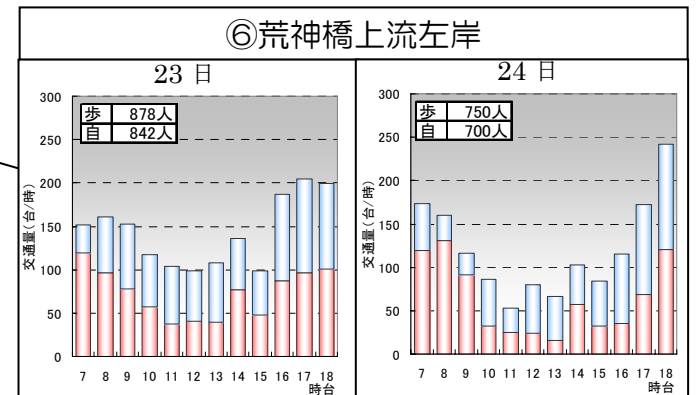
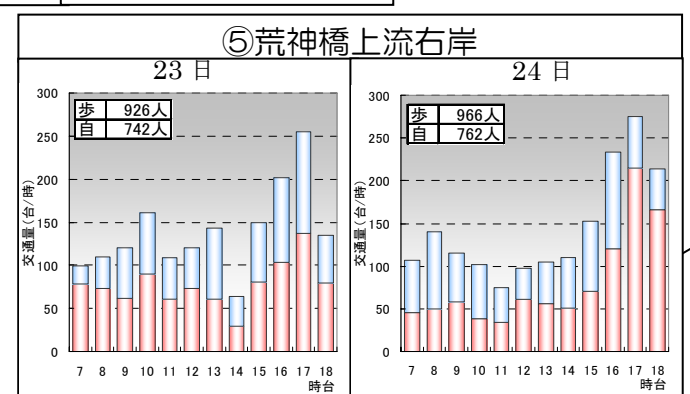
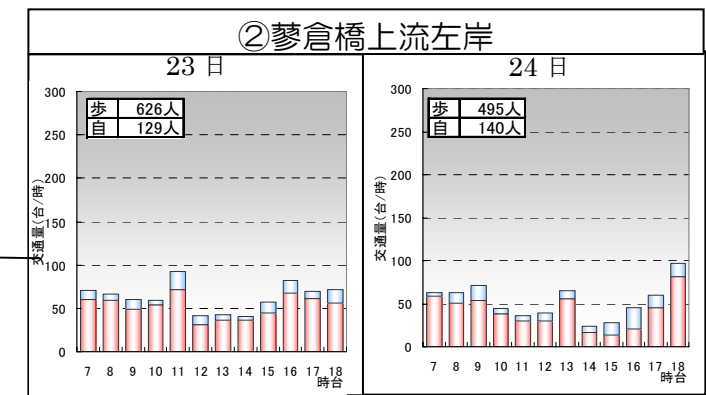
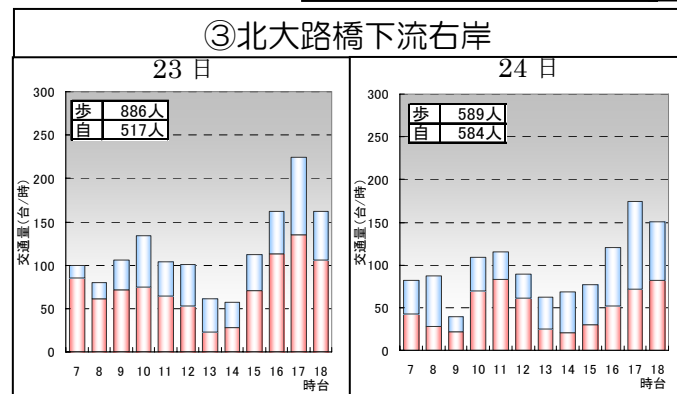
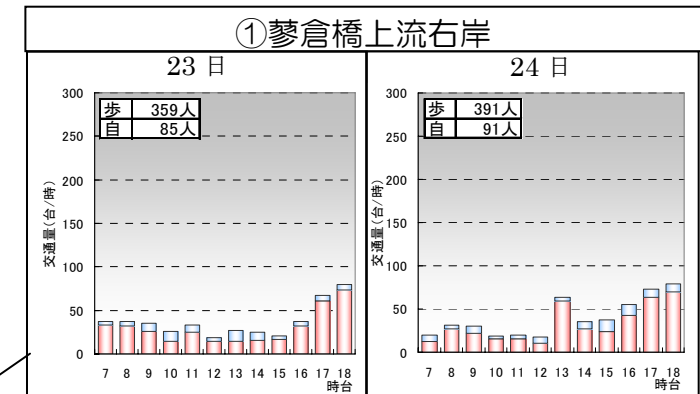
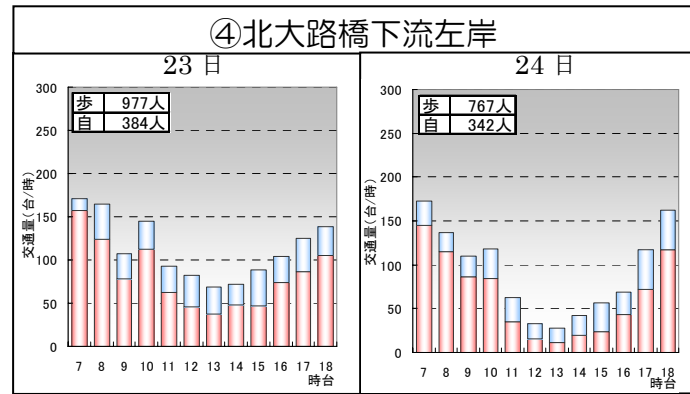


〈論点〉

- ・ 堤防裏法等を利用して並木整備をする場合に、相応しい樹木の種類は、どのようなものでしょうか？
- ・ 府民利用を拡大するために、拠点（候補地）に整備する機能として必要なものはどのようなものでしょうか？
 - ② 野鳥観察などの環境学習の場
 - ③ 体力増進などの運動器具
 - ④ BBQ利用の場
 など

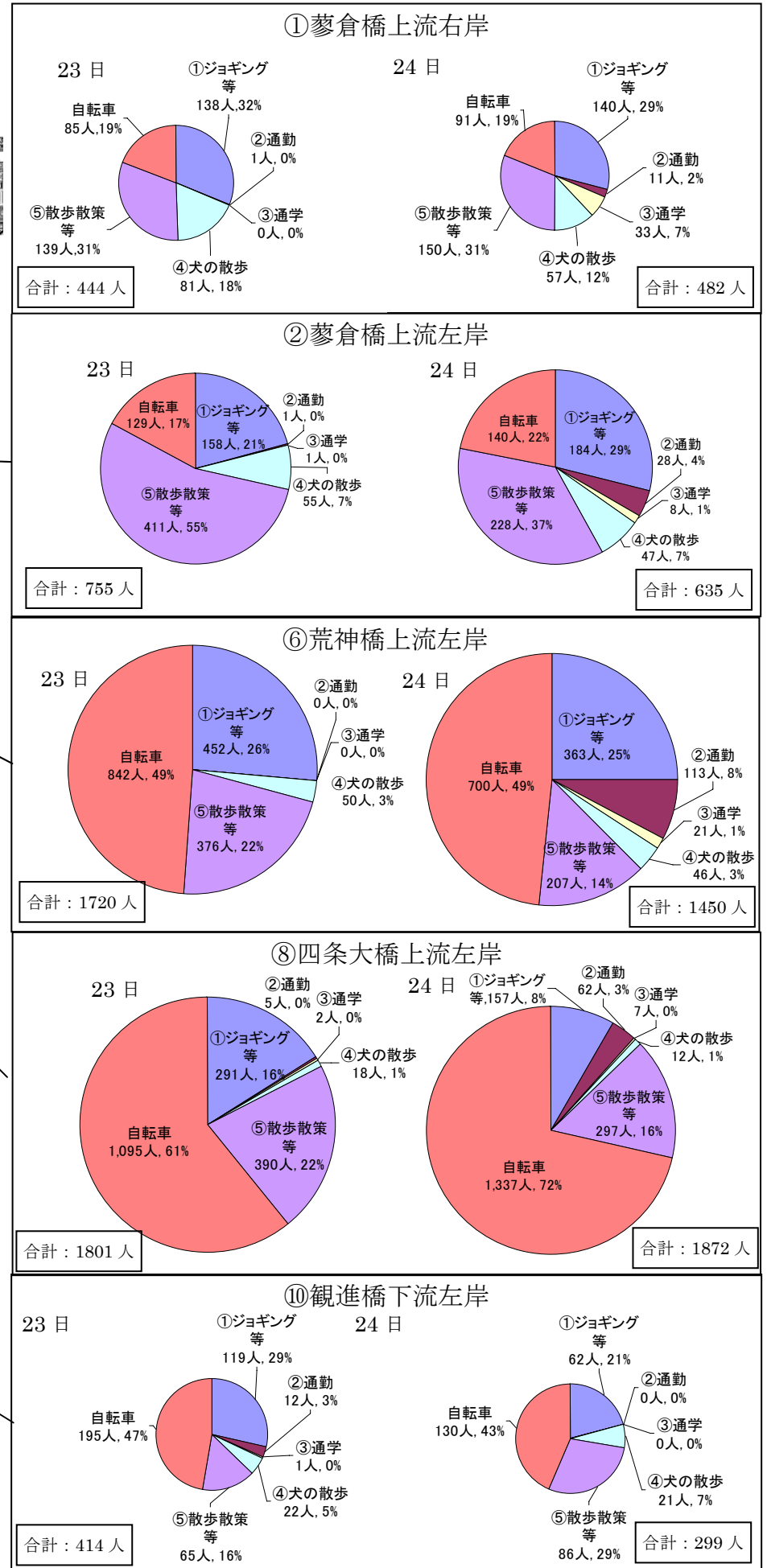
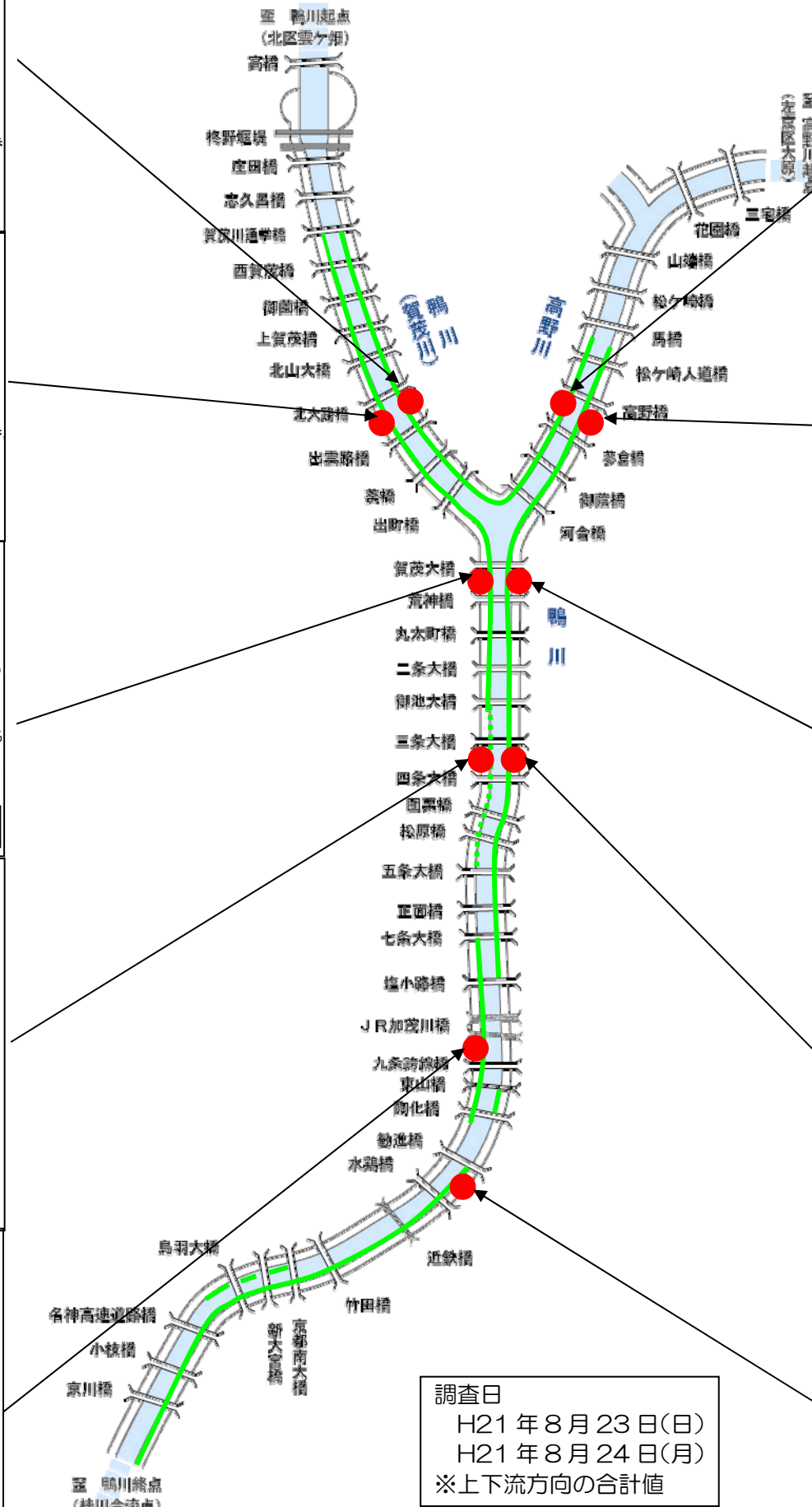
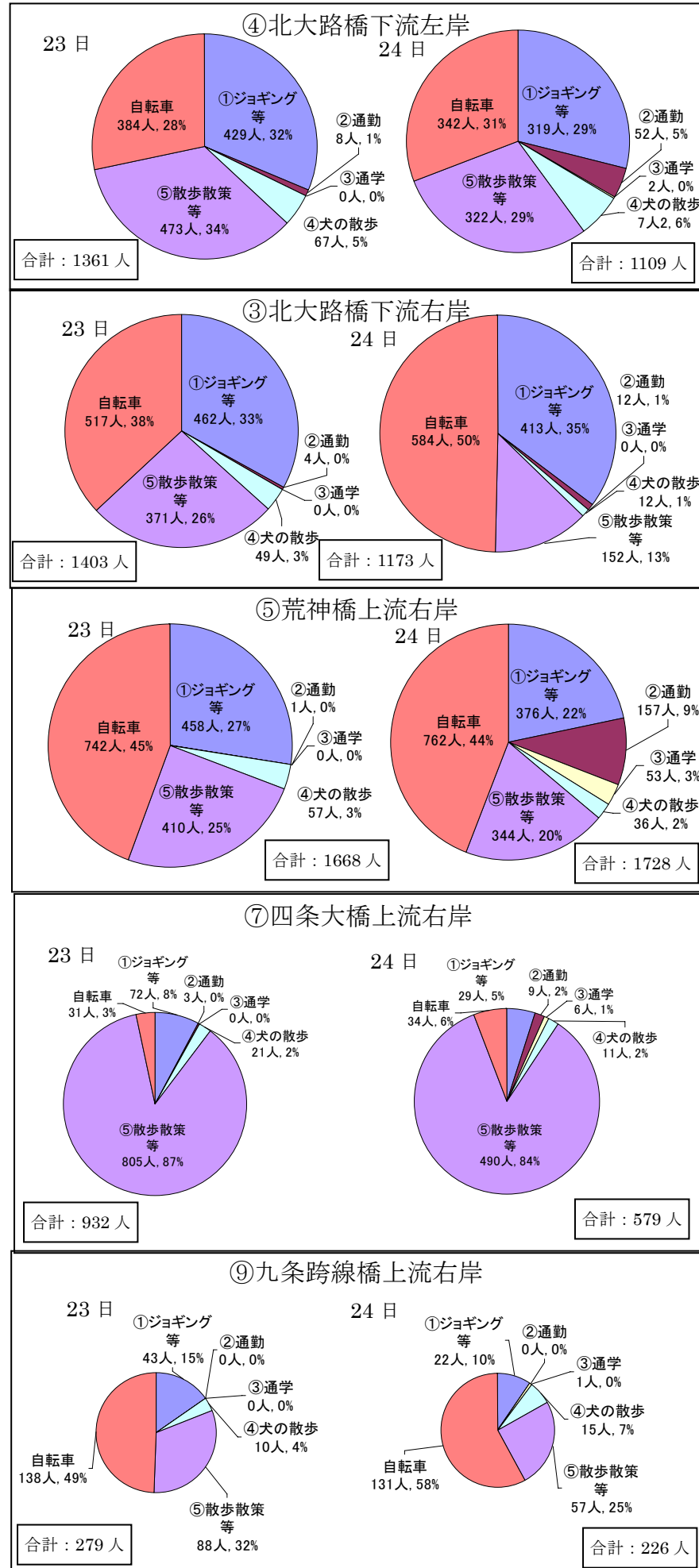
参考資料 <利用実態調査結果 時間別利用者数>

調査日
H21年8月23日(日)
H21年8月24日(月)
※上下流方向の合計値



凡例
歩行者計
自転車計

参考資料 <利用実態調査結果 形態別利用者数>



鴨川公共空間整備基本設計に係る今後のスケジュール

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	備考
公共空間整備 基本設計	★利用実態 調査			★利用実態 調査		公共空間整備 プラン案策定		● 公表		府民への 情報発信	○「府民による新しい 鴨川づくり推進事業」 ・かもがわ30km ジョギングロード整備 ・かもがわ花物語整備 各事業の整備内容の具体化
	←→			←→			←→				
	基本プラン素案 の検討						自治会、京都市 との意見交換 ・ミーティング他				